

社会保障領域のインフルエンサーを目指す医療法人東西会グループ

連載 128 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック理事長
橋本 満義 (69歳・内科)

将来の「在宅医」。
大いに社会性を磨き、育つ。

5年ほど前から毎年約1カ月間、医学生や研修医が在宅医療の臨床研修のため、当院にきています。(厚労省の医療政策となっている。)



研修最終日の前夜は通例として、10人ほどのメンバーで食事会(一次会)と飲み会(二次会)が開催されます。おとなとなった研修医の二次会は、松山で1、2を競う高級クラブのVIPルームにて最高のおもてなしを体験してもらいました。

その日は10月30日。ハロウィーンの前日で、高級クラブの女性(ホステスさん)は全員コスプレ衣装でした。私はその席で隣に座っている研修医に言いました。「在宅医療にとって一番大切なことは病気を治すことだけど、それだけではないよ。患者さんの幸せと一緒に考え、そのディマンズ(要望)に医師として適切な対応をとることだよ。そのためにも、私たち医師ももっともっと世間の痛みを知り学習するため、このよ

うな場所からの視点を持つ視座が大切だね」そして彼の顔を見ると「先生のおっしゃることがよくわかるようになりました。その通りだと思います」その返事に私はとても満足な気持ちになりました。が、しかし少々違和感もありました。なぜなら、彼は後ろ手におもちゃの手錠をかけられ、コスプレした美人女王様の召し使いにされているのですから。「君は神戸山の手、開業医の御曹司だけれども、将来、心ある立派な地域の臨床医となるよ。合格だよ!合格!!」「ありがとうございます。頑張ります。楽しい楽しい研修でした」

楽しい時間は過ぎ、その一団が去った後、思いました。2年前に医学生としてやってきてた彼は、とても緊張していてまじめすぎる印象でしたが、今回久しぶりに会うと、自然体で良い感じになっていたなあと。農家の長男だった私は、いつも優しく駆けつけてくれる当家の「かかりつけ医」に憧れて、10歳の頃に医師を目指しました。そんな私が今回、自己満足ではありませんが、一人の名医を育てたような気持ちになったのです。それは、そよ風が私の体の中を吹き抜けたようにとても心地よく、幸せいっぱいなのでした。

私の人生訓 | 人は大いに遊びそして育つが、「遊」から学び、そして「哲学」となる。

～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉
人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)
現場の人たちを救命救急士として教育する
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



医療法人 東西会グループ
外来診療 (かかりつけ医) **内科** 要予約
内科・外科・麻酔科・ペインクリニック内科
(医師/薬村 歩)

お医者さんが来てくれる! 24時間・365日体制で対応 (松山市全域)

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 20名 (令和元年11月現在)

末期がん治療 (緩和ケア) 相談室開設!

訪問診療

「イチゴ・ツル・カメ」三世代の「絆」を表すキャラクターです。イチゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

国立愛媛大学附属病院臨床研究協力機関
大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関
関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9
Tel:089-933-3788
http://www.touzikai.jp/